

第4章 具体的な取り組みの展開

佐賀城下再生百年構想策定会議では、佐賀城下再生を目指す5つの目標に基づき、その具体化させる取り組みを「佐賀城下のまちづくり」、「佐賀城下の観光戦略」、「佐賀城下公園・景観づくり」の3部会で議論した。ここではその中で提案された具体的な取り組みについてまとめている。

1. 佐賀城下のまちづくり

佐賀城下のまちづくりについては、住民主体のまちづくり活動の継続と観光拠点化に伴う交通需要への対応と品格ある城内空間形成の調和が重要な課題であるため、(1)で佐賀城下のまちづくり体制づくりについて、(2)で城内交通システムの構築について、具体的な取り組み内容を整理している。

なお、佐賀城下のまちづくりの方針としては、下記の4つを整理している。

- ・子供たちが安心して遊べる街環境づくり
- ・品格ある城内空間と交通利便性の調和
- ・まちづくり活動の継続体制の構築
- ・若い世代へのまちづくり活動の継承

(1)佐賀城下まちづくりの体制づくり

佐賀城下百年構想を住民主体で一步步進めていくためには、住民主体の継続する組織づくりが重要である。そこで、継続していく組織を構築していくための基本的な考え方としては、次のような事項があげられる。

構想策定の3部会（まちづくり部会、観光部会、公園・景観部会）の発展的継続体制づくり

- ・平成18年度「佐賀城下百年構想」の策定においては、地元住民の方々の意見を踏まえ、城下のまちづくり、観光のあり方、公園や景観整備のあり方など検討していくことを趣旨として3部会が組織された。
- ・この部会を本年度の構想づくりの検討のみで終了させることなく、さらに城下の若手の人々の参加を呼びかけ、発展させていく必要がある。
- ・各部会では、今年度の構想づくりにおいて提案された取り組みのテーマを、早い機会に再度検討し、具体的な活動への展開していくことが期待される。

部会の運営事務局の立ち上げ

- ・事務局は本体制を運営していくための要となる組織であり、また、活動が軌道にのるまでは非常に重要な役割を担うものとなる。
- ・平成19年度は、県と市の主導のもと事務局準備会を立ち上げ、平成20年度以降は、県や市との協力を得ながら地元の住民・市民が中心となって運営していくような事務局を目指していく。

段階的な組織体制づくり

- ・城下のまちづくり活動を持続的なものとしてくためには、城下に係わっている自治会、周辺商

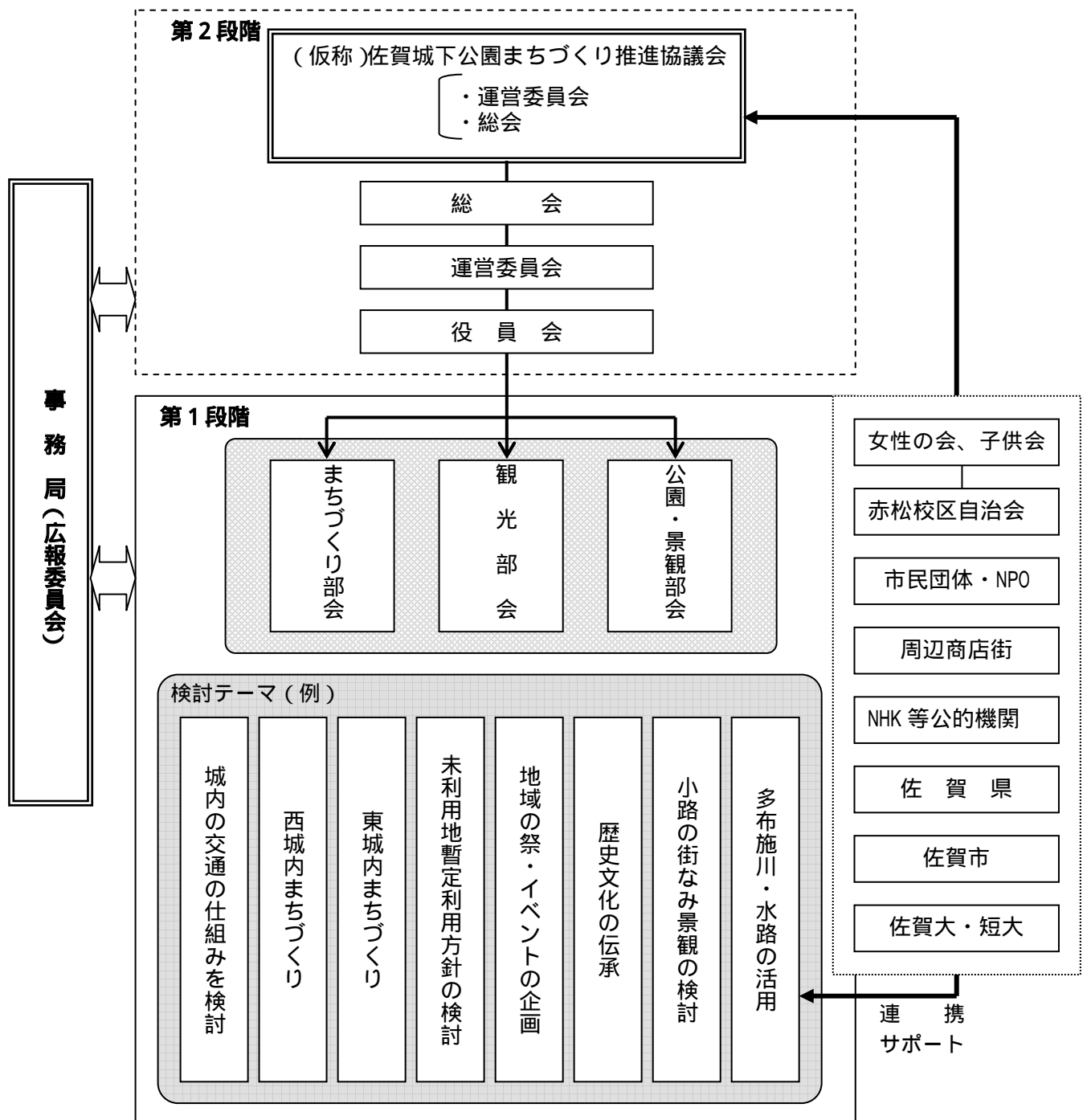
店街、PTAや子供会などの地区住民の方々をはじめ、NHK等の公的機関及びNPO等の市民活動団体、佐賀大学などの地区住民以外の方々の協力も不可欠である。

- ・テーマ毎の活動においても、これら関係者へ呼びかけて、当初段階から一緒に活動していくことが意識の共有を図り、活動を盛り上げていくことにもつながる。
- ・従って、当初段階では周辺関係者との協力も得ながら、各部会におけるテーマ毎の活動を推進していくこととする。
- ・次の段階では、テーマ毎の活動とあわせて、さらに城下全体の意識の共有を図っていくため、3部会をはじめ城下関係者及び行政など（自治会、商店街、子供会、女性の会、佐賀県、NPO、佐賀県、佐賀市、佐賀大学等）を含めた「(仮称)佐賀城下公園まちづくり推進協議会」の設置へ向けて検討していく。

活動内容を公開する場の設置と情報発信の必要性

- ・今後、テーマ毎の活動を具体的に進めるためには、テーマ毎に関係者が集まり、話し合いができる場が必要である。また、活動が機動しはじめ、その活動情報を広く県民へ公開し、また、活動状況を城下の地区住民へ発信する場が必要である。
- ・この活動の拠点の場については、城内の空き家や空き施設などの既存の建物を改修し、活用していくことも考えられる。
- ・活動状況を公開する場だけではなく、自治会住民及び関係者には定期的に活動内容を知らせ、関心をもってもらうためにも情報を発信しつづけていくことが大切である。
- ・このため、定期的な「(仮称)城下まちづくりニュース」の発行、インターネット活用による情報発信など、目的や対象に応じた効果的な方法を検討していく必要がある。この情報発信を行う機関としては、事務局内部に広報委員会的な役割を持つチームを結成する必要がある。
- ・準備段階及び活動が機動にのるまでは、県や市の支援（人的支援、話し合いの場の提供、当初段階での活動助成など）が必要であるが、将来的にはNPO等の法人化によって、自立した運営を目指す。

住民主体で持続する城下の組織体制のイメージ



平成19年4月以降は、事務局準備会を立ち上げ、各部会と協議しながら、テーマの実現化に向けての取り組みを進める。

(2) 城内のみちづくり

佐賀城下の観光によって増える自動車と駐車場の問題や城内住宅地の通過交通など、城内の交通問題は今後の重要な課題である。基本的な考え方としては次の事項が考えられる。

歩行者の安全確保が第一

- ・城内の道路は、優れた景観を有しているものの、昔ながらの道路体系であるため道幅が狭く、通勤等の通過通行量が多いため、歩行者にとって非常に危険な状況になっている。
- ・住宅地も密集しているなどの現状から、道路の拡幅は難しい状況である。
- ・速度を緩める道路整備の検討や時間帯によっては居住者や施設利用者に限るなど、通過交通の制限などの検討も必要になっている。

風景をこわさないみちづくりの推進

- ・品格ある佐賀城下を形成するためには、道路などの公的空間の整備によるイメージづくりなどの具体的な事業展開が不可欠である。
- ・特に本丸小路、二の丸小路、西城内の小路は、閑静な住宅街を形成しており、主要な観光の軸ともなりうることから、景観に配慮した町並み整備と合わせた道路整備も必要となっている。

景観形成と環境保全、住宅地の交通体系を合わせた交通環境の構築

- ・歴史的資産をもつ「佐賀城下」では、その景観形成と環境保全、住宅地の交通体系を合わせた整備の検討が必要である。
- ・城内の自治会においても、車規制のための検討を考えている動きもあるため、佐賀市・佐賀県とも連携し、城内の主要幹線の交通需要の把握から公共交通システムとの連携、観光動線や駐車場の配置等も含めた佐賀城下全体の交通体系のあり方を検討する必要がある。
- ・歴史的町並みや史跡等文化財の保全・整備を一体となった街路整備を進める“身近なまちづくり支援街路事業（歴みち事業）”などの活用も検討を行う。

2. 佐賀城下の観光戦略

佐賀城下の観光戦略については、佐賀城本丸歴史館周辺に集積する未利用地の活用と城内と観光エリア等を回遊してもらうための観光ルートの構築が課題であるため、(1)で佐賀城本丸歴史館周辺の空地の活用、(2)で観光ルートづくりについて、具体的な取り組み内容を整理している。

なお、佐賀城下の観光戦略の方針としては、下記の5つを整理している。

- ・幕末の歴史・鍋島を売り込む
- ・観光客へのもてなしの向上
- ・リピーターを呼び込む仕掛けをつくる
- ・若い世代に歴史を伝える種まき活動の開催
- ・物語性のある歴史観光コースの形成
- ・佐賀城門前空間の積極的活用

(1) 佐賀城二の丸プロジェクト

観光拠点のイメージの提案

- ・観光部会では、観光拠点のイメージについて、主に下記のような意見をいただいている。このような提案を参考に、観光拠点の具体化を進める。

テーマ	活用イメージ
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客だけでなく、地元住民も休憩や買い物に利用できるサービスの提供 ・お茶やお菓子を楽しむ喫茶スペース、買い物スペース、飲食店の提供 ・佐賀の魅力・特色である鍋島や幕末の歴史にちなんだ展示 ・観光情報コーナーを併設 ・佐賀城にまつわる物語や、地元住民お勤めの店舗など、城内のまち歩きスタート地点として、基礎的な情報を提供
立地場所	<ul style="list-style-type: none"> ・観光動線上、駐車場よりも本丸歴史館の近くに施設があるのが望ましい。 ・本丸歴史館駐車場部分や气象台跡地の活用を検討 ・観光客用駐車場については、城内の交通体系全体で検討を行う。
建物	<ul style="list-style-type: none"> ・木造にするなど、周囲の佐賀城下の風景と調和した建物 ・例えば協和館を復元して活用するなど、古い建物の移築を含めて検討
運営	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者や地元のNPOグループ等との連携を図りながら、施設管理・運営を検討
物販機能	<ul style="list-style-type: none"> ・鍋島緞通、佐賀錦、お菓子など、佐賀の特産品・伝統工芸品を販売（物産のテーマを県内に広げるかは今後検討）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「佐賀御膳」「鍋島36万石」など、覚えやすいネーミングのメニューづくり ・气象台跡地と視聴覚ライブラリの連携の検討 ・視聴覚ライブラリに学習・体験・販売等の機能を検討

二の丸プロジェクト展開イメージ

〇二の丸プロジェクトを議論する場づくり

・佐賀城本丸歴史館の門前でのにぎわい創出に向けて地元住民や事業者、佐賀市、佐賀県などが加わった城内のにぎわいづくりに関する研究会を立ち上げる必要がある。
 ・研究会では、水道局跡地や気象台跡地、本丸歴史館駐車場といった佐賀城本丸歴史館周辺の未利用地・空地を活用したイベント等について意見交換を行い、事業の具体化を進める。

〇乗客スペースとしての活用から、観光拠点のイメージを形成

・当園は本丸歴史館前の駐車場や気象台跡地をイベント等で活用することで、地元住民と観光客がふれあう場をつくり、市民のもてなしのトレーニングを行う。
 ・高校総体等の周辺イベントと連携体制も構築しながら、地元住民が中心となった節句などの季節毎の魅力ある独自イベントの開催なども企画していく。
 ・また、イベントに訪れる観光客の分析を行うことで、観光拠点のターゲットとする客層やニーズの把握といったマーケティング調査も並行して行い、観光拠点の立地場所や施設のコアコンセプト・建物のデザイン・事業運営手法等について検討を行う。

司遊みの整備

・司遊みの整備

万部島整備

・万部島整備

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸広場

・二ノ丸広場

本丸広場

・本丸広場

ファサード整備

・ファサード整備

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

二ノ丸エリア

・二ノ丸エリア

【歴史(復讐)】
 ・佐賀の歴史を振り返る歴史工芸品等を展示
 ・お茶やお菓子を楽しむ喫茶スペース、お食事処、ランチなど、観光客や地元住民がくつろげる場を整備
 ・観光情報コーナーを併設し、佐賀県にまつわる物語や、地元住民おススメの店舗など、城内のまち歩きのための基礎的な情報を提供(オリエンテーション)
 ・歴史館、佐賀県、お菓子、その他伝統工芸品などを販売
 ・歴史館の移転を検討

将来の土地利用検討エリア
 ・今後の社会動向に合わせて整備イメージを検討

将来の土地利用検討エリア
 ・今後の社会動向に合わせて整備イメージを検討

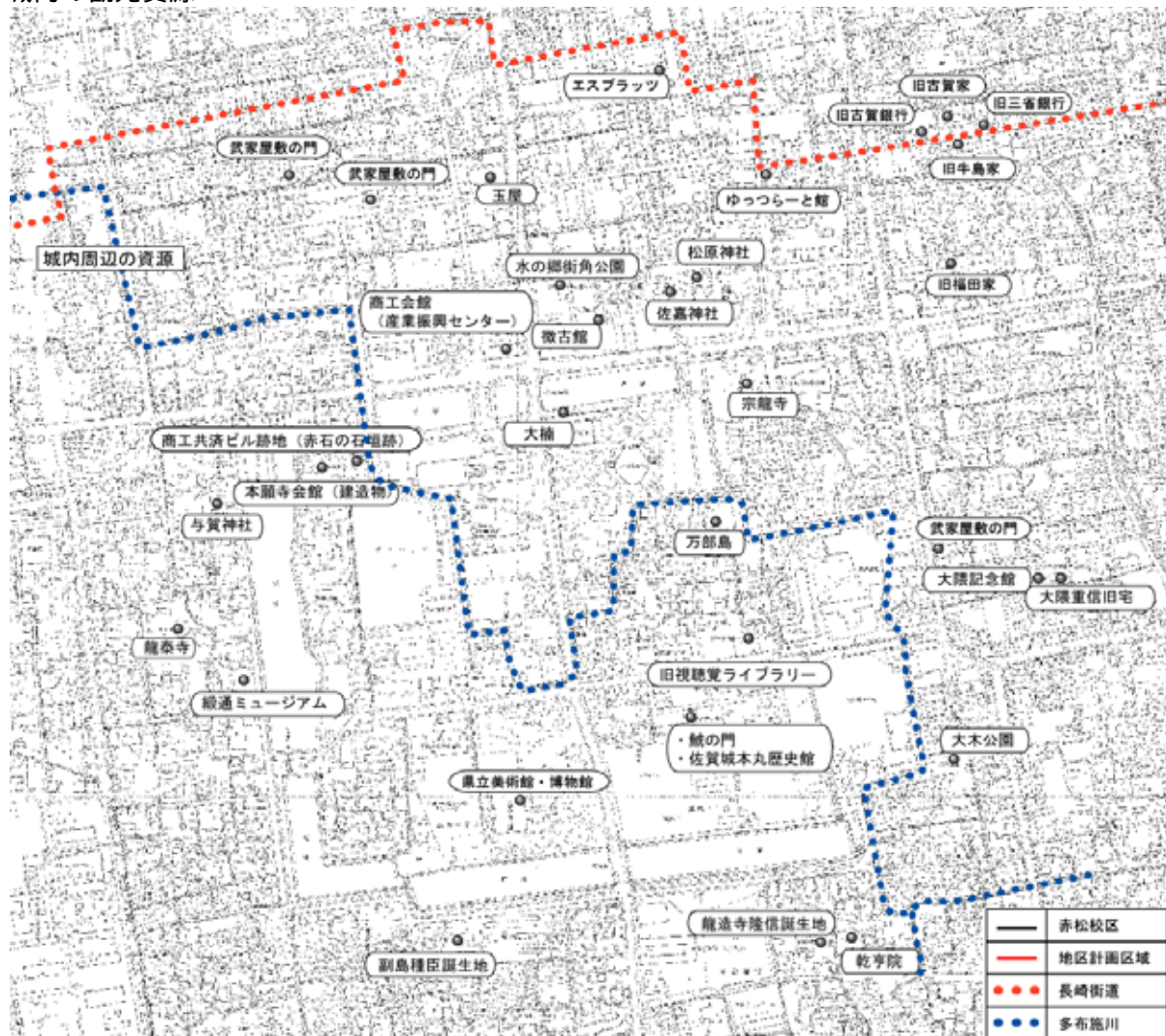
将来の土地利用検討エリア
 ・今後の社会動向に合わせて整備イメージを検討

(2) 観光ルートづくり

「城内の歴史文化研究会（仮称）」の立ち上げ

- ・城内にまだ眠っている歴史文化の資源を発掘し宣伝していくため、地元住民や専門家が参加した「城内の歴史文化研究会」の立ち上げを行う。
- ・城内に残る物語や、歴史資源など、観光資源につながるものリストアップを行い、観光ルートなどの検討を行う。

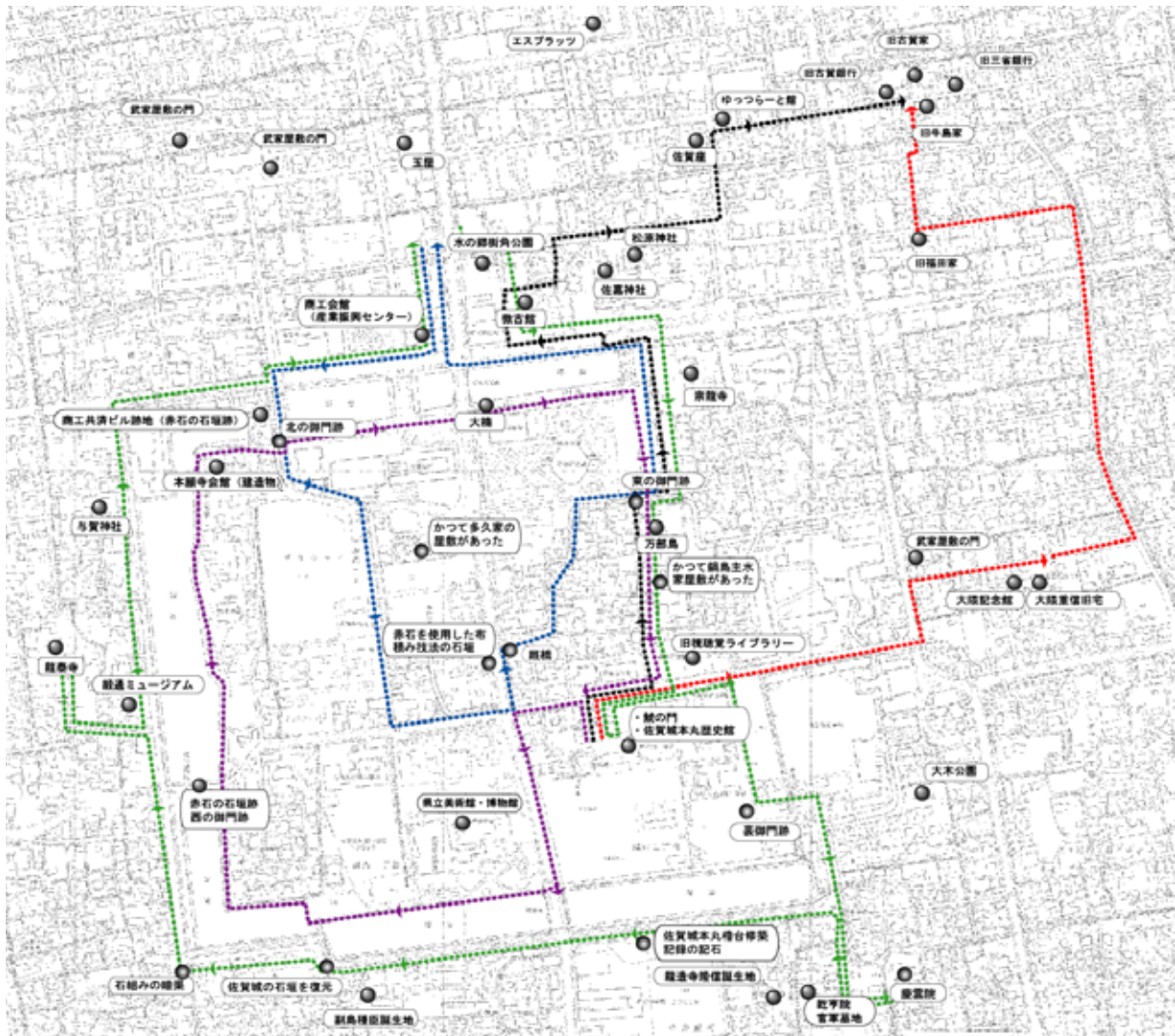
城内の観光資源



観光ルートと佐賀城下町歩きガイドの育成

- ・佐賀城下に残る歴史や、水路・橋にまつわる物語等をテーマごとに整理し、観光ルート化を行う。（次項の図に参考例として、「鍋島とんさんコース」「お濠めぐりコース」「城内の暮らし探訪コース」等を紹介）
- ・昔の城内の生活や文化に詳しい地元住民や専門家などへのヒアリング調査も行いながら、ガイドに必要な情報収集とデータベースの構築を行うとともに、市報や県・市・観光協会のホームページなどでの紹介などを通じて口コミサイトとしての情報発信活動も展開する。
- ・蓄積した情報データベースを、ボランティアガイドの教材としても活用する。
- ・殿様の「参勤交代の道を歩く」、「江戸時代の武将が住んでいた屋敷跡と物語巡り」などの新たなテーマを順次追加。

観光ルート（案）



凡例	ルート概要
●●●●→	<p>鍋島とんさんコース</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐賀城本丸歴史館 二の丸小路 万部島 宗龍寺 佐嘉神社 佐賀座 柳町 佐賀城本丸歴史館に来た観光客に、佐賀城本丸歴史館や万部島、徴古館など鍋島家ゆかりの史跡を見て歩くコース
●●●●→	<p>大隈・幕末コース</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐賀城本丸歴史館 大隈記念館 旧福田家 柳町 佐賀城本丸歴史館・大隈記念館など、幕末の佐賀の歴史や、橋にまつわる物語などを学びながら歩くコース
●●●●→	<p>お濠めぐりコース</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐賀城本丸歴史館 石垣復元跡 西の御門跡 西濠散策 商工共済ビル跡地 万部島 二の丸小路 佐賀城のお濠沿いの雰囲気の良い通りを散策しながら、赤石や石垣の構造などを見て歩くコース
●●●●→	<p>城内の暮らし探訪コース</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工共済ビル跡地 多布施川 佐賀城本丸歴史館 万部島 徴古館 水路沿いの街並みや裏通りなど、佐賀城内らしい景観や日常生活の風景を楽しみながらそぞろ歩きをするコース
●●●●→	<p>ぐるっとウォーキングコース</p> <ul style="list-style-type: none"> 徴古館 万部島 二の丸小路 佐賀城本丸歴史館 西の御門跡 緞通ミュージアム 与賀神社 商工共済ビル跡地 佐賀城の周囲に点在する佐賀城総普請前の龍造寺家ゆかりの寺や史跡を見て歩くコース

3. 佐賀城下公園・景観づくり

佐賀城下の公園・景観づくりについては、東堀の復元や佐賀城本丸北西部の整備が進められていることから、“佐賀城公園まち”を形成していく上で、“まち”にあたる住まい・町並み環境の整備が重要な課題となっている。また、佐賀城下を流れる多布施川や水路は水辺空間を形成する重要な景観要素であるため、住環境と一体となった整備が必要であることから、(1)で城内の住まい・町並みづくり、(2)で水路のまちづくりについて、具体的な取り組み内容を整理している。

なお、佐賀城下の公園・景観づくりの方針としては、下記の5つを整理している。

- ・佐賀城本丸歴史館・万部島・松原神社とつなぐ動線の形成
- ・万部島のシンボル性を活用した景観形成
- ・親しみやすい多布施川・水路景観の創出
- ・佐賀城と連携した街路景観の創出

(1) 城内の住まい・町並みづくり

町並み整備、まちづくりへの取り組みの意義

- ・二の丸小路は、佐賀城本丸歴史館と佐嘉神社や徴古館をつなぐ主要な観光の軸となる可能性があり、また、二の丸小路を含む東城内地区一帯は、今後とも少子高齢化の進行や空き地・空き家の進むことが懸念されることから、早急に町並み整備とあわせて、地区全体のまちづくりに取り組んでいく必要がある。
- ・二の丸小路から東西に入り込んでいる路地(交ヒ(あや))や水路は、佐賀城下の特徴的な景観であるから、城内の歴史的な特性を生かしたまちづくり、風格あるまちづくりを進めていく上では、町並み整備とセットで環境整備を行っていくことも検討していく必要がある。
- ・本丸小路は、佐賀城が普請された当時の遺構を残しているといわれていること、また、多布施川沿いの道路であることから、多布施川の整備と併せて城内にふさわしい風格のある町並み整備を演出できる場所である。
- ・このような町並み整備やまちづくりを進めることで、地区としてのアイデンティティを高めるとともに、住み続けたい地区とし、若年世帯の流入促進を図る。

観光客にも対応した環境整備

- ・町並み整備にあたっては、下記に詳述する観光ルートの構築とも連携し、ルート沿いのサイン・案内板の整備、観光サインの色調・デザインなどの統一についても検討を行う。

町並み整備・まちづくりへの取り組みの進め方について

- ・町並み整備及びまちづくりを進めていくためには、地区に住んでいる住民や地権者がまちづくりの問題や課題、町並み整備について話し合い、一緒に考え、意識を共有していくことから取り組んでいくことが肝腎である。
- ・そのためには、地区住民の代表者からなる「(仮称)二の丸小路町並み整備検討委員会」を立ち上げ、県や市の支援や協力を得ながら解決策を検討し、事業化にむけて取り組んでいく必要がある。

(3)水路のまちづくり

水路・多布施川を通じた住民、佐賀市、佐賀県のネットワークづくり

- ・城内に張り巡らされた水路網は、佐賀城下の個性であり、今後も残していかなければならない重要な地域資源である。
- ・水路の水質は問題がないため、川をまちのオモテとして活用可能な状況になってきているが、水量不足で水路の一部が流れにくくなる部分が存在しているため、水量の確保が問題となっている。
- ・水路の一部ではゴミ捨て場になっている箇所もあることから、その対策も含めて地元住民、佐賀市、佐賀県、NPO等を交えた水路の活用検討の場が必要となっている。

多布施川・水路研究会の開催

- ・多布施川や小水路の周辺には、親水空間としての魅力だけでなく、江戸時代の石垣や蛸、橋にまつわる物語など、様々な資源がある。水路の周辺にある資源を再認識し、水路に花を植える、蛸を楽しむ、橋を巡るといった既存の資源を活かしたソフト面の活動を展開し、必要な箇所については整備の検討を進める。
- ・城内の水路網の構造や特性、多布施川の歴史、工法などにも特徴があることから、これらの研究会を地元住民が中心となって開催することで、水辺空間づくりへの関心を高める必要がある。
- ・また、専門家を交えた多布施川・水路ウォーキングを開催するなど、周辺住民の地域魅力再発見につながる活動を展開することで、地元のアイデンティティづくりにもつながる。

佐賀城下のシンボルとしての「万部島」の再生

- ・万部島は、もともと“濠に浮かぶ島”であり、佐賀城の鬼門に位置しているが、かつては領内が凶作に見舞われないようお祭りが行われており、その期間中だけは一般人の立ち入りが許され、法華経を万部唱えたので、「万部島」と呼ばれるようになった謂われのあるところである。
- ・万部島は、佐賀城本丸とのつながりも深く、松原神社との観光動線を構築する上での中継地点でもあることから、シンボリック的存在である。
- ・お濠が埋められる以前の万部島は、水路とお濠に挟まれた“島”であった。周辺の小水路や町並みと関係を読み解きながら、周辺地域と一体的になった環境整備を行い、島らしい空間の再生、観光客や地元の人たちがくつろげる親水空間の整備を検討する。

東城内地区を「水路のまち」モデル地区として再生

- ・東城内地区は、佐賀城下の中でも小水路、多布施が集中しており、水辺空間を形成していく上で要素に非常に恵まれたエリアである。
- ・ただ、場所によっては、水路の水量が安定しないなどの問題があることから、水路網の構造や特性についての調査を進める。
- ・統一感のある水路空間、町並み整備を一体的におこなうためにも、地元住民、佐賀県、佐賀市が集まって、住まい方や水路のデザイン、水路周辺の植栽についても民地・公共空間に共通する植栽ルールを考えるワークショップを開催するなどの取り組みを検討する。

参考資料

1. 既往計画の整理

佐賀市総合計画
<p>【佐賀城公園を生かしたまちづくり】</p> <p>1. 目的</p> <ul style="list-style-type: none">・佐賀城本丸歴史館の開館を契機に、佐嘉神社、松原マーケット、徴古館周辺整備を進め、佐賀城公園と柳町地区を結ぶ地区の一体的な整備を行うことで中心市街地の活性化を図る <p>2. プロジェクトの方針</p> <ul style="list-style-type: none">・佐賀城公園を観光拠点として位置づける・「歴史の森」や佐賀城本丸歴史館の利用を図る・佐賀城下再生百年構想に基づき、佐賀県とともに佐賀城公園整備事業を推進 <p>3. 個別プロジェクトの概要</p> <p>【佐賀城公園の整備・活用】</p> <ul style="list-style-type: none">・県立佐賀城公園整備事業を県とともに推進・佐賀城公園と雰囲気のある快適な周辺空間の形成を図るため、歴史的遺産と調和した環境整備に努める・当該地区における市としての整備活用についての方向性を確立し、観光拠点として位置づける・佐嘉神社、松原マーケット、徴古館周辺整備を推進する

佐賀市総合計画（平成12年度策定）
<p>【観光の新しい展開～歴史や文化・自然の活用と整備】</p> <p>基本方針</p> <p>佐賀城公園の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none">・県立佐賀城公園を本市の観光拠点として位置づける・佐賀市として整備活用方針を検討するなど、本公園事業を県とともに推進する。 <p>（事業概要）</p> <ul style="list-style-type: none">・「佐賀城公園まち構想」のもと県立佐賀城公園整備事業を県とともに推進・歴史的環境遺産と調和した環境整備・佐賀市としての整備活用の方向性を確立するとともに、佐賀市の観光拠点としての活用の推進 <p>柳町地区の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none">・長崎街道の歴史的雰囲気が色濃く残り、都市景観形成地区の指定をしている柳町地区の整備・活用 <p>（事業概要）</p> <ul style="list-style-type: none">・佐賀市歴史民俗館を中心とし、他の観光資源と一体となった拠点整備の推進・整備については、展示だけではなく体験型施設を含む整備の検討 <p>【都市景観の形成】</p> <p>基本方針</p> <p>都市景観形成事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・長崎街道や佐賀のシンボルゾーンである佐賀城周辺については市民の理解と協力のもと景観の形成・保全に努める。 <p>（事業概要）</p> <ul style="list-style-type: none">・佐賀城周辺については、佐賀のシンボルゾーンとしての景観の形成、保全に努める。・長崎街道については景観形成地区の指定や需要建築物等の指定物件などを中心に、拠点的・個別的に景観の保全に努める。

佐賀市総合計画（平成2年度策定）

1．佐賀城及び周辺に関する基本的考え方と整備方針

【佐賀城周辺整備】（基本計画第1章 - 第2節）

佐賀城内の位置づけ

- ・ 風格あるまちづくりのシンボルゾーン

整備の方向

- ・ 佐賀市のランドマークとなるよう、その復元、保全を図り、将来は観光拠点とする。
- ・ 城内の土地利用の実態を踏まえ、首尾一貫した哲学のもとに段階的に取り組む
- ・ 市民のコンセンサス形成を重視し、ハード・ソフト両面から総合的な施策を講じる。

主な事業計画

鯨の門周辺の公園化

- ・ 本丸地区約9haを公園区域に編入し、歴史的な雰囲気の復元保全

道路沿線の修景

- ・ 市道城内線及び佐賀駅末次沿線地域の修景の推進

景観の保全

- ・ 城内の文化財、史跡等の歴史的遺産にマッチした周辺環境の整備と城内の景観の保全・整備

■長期的にみた城内整備の方向



2．観光振興からみた基本的考え方及び整備方針

【観光の振興】

観光の基本的な考え方

- ・ 「歴史・文化観光の佐賀」として位置づけ

主要事業計画

歴史・文化を生かした観光開発

- ・ 豊富な歴史・文化資源を生かした観光ルートである「佐賀城下町コース」「葉がくれの里コース」などとともに、他の都市圏内の観光資源との連携
- ・ 本市観光の新しい拠点となる県立歴史資料館の早期完成への働きかけ

3．その他

【水と緑のネットワーク】

基本的な考え方

- ・ ゆとり、潤いのもてる生活環境の創出とともに水辺空間と緑地空間とのネットワーク化

主要事業計画

水・緑空間の整備

- ・ ふるさとの川モデル河川に指定されている多布施川の水辺環境の計画的な整備

緑の基本計画（平成 15 年度策定）

【水と緑のネットワークの形成】

水と緑のネットワークの推進

基本方針

- ・佐賀城公園整備におけるお濠の復元をはじめとした水辺の環境整備を推進し、美しい街並みの形成を図る
- ・史跡や公園、水辺などと連携した水と緑のネットワークの形成を継続する。

水辺の環境整備の推進

基本方針

- ・多布施川沿いの桜の補植を計画的に実施

城内景観形成地区ガイドライン（平成 14 年 12 月策定）

【景観の特徴】

お濠とクスノキに代表される豊かな水と緑

城址としてのたたずまいに息づく歴史・文化

公園、文化施設、行政施設などが集中する佐賀の顔

【城内都市景観形成の方針】

「城内」として受け継いできた風格、お濠の水と緑が織りなす「ゆとり」を守り、佐賀の顔としてのシンボル性を育てながら、城内ならではの「たたずまい」をつくりだしていく。

- ・お濠の水とクスノキを最重要骨格として、うるおいのある公園的環境と住環境を守っていく
- ・歴史と文化につちかわれた風格あるまちなみにそだてていく
- ・住む人、訪れる人にとって、佐賀の象徴としてふさわしい顔をつくっていく

【景観づくりのイメージ】

住宅景観ゾーン

- ・生垣の設置や樹木の保全による緑豊かな街路空間の形成
- ・水と緑の調和する色彩や素材 など

お濠外周景観ゾーン

- ・クスノキなどお濠周辺の環境と調和した建築や広告物
- ・特徴的な樹木の保全による季節感の演出 など

幹線道路景観ゾーン

- ・街路樹と一体となった建築や広告物の色彩や意匠
- ・まちなみの連続性、賑わいのある街路空間づくり など

佐賀市中心市街地活性化基本計画（平成16年策定）

1．中心市街地の役割

- ・「地域の顔」「地域のシンボル」「地域のアイデンティティの具現化する場」
- ・商業機能からサービス機能までの地域経済活動の基盤となるエリア
- ・職・住が一体となって地域活動が継続でき、環境や行財政への負担も低いコンパクトシティ

2．中心市街地活性化の方針

住む人を増やす

佐賀は中心市街地に住んでいる人が非常に少ない。過去郊外の宅地開発により市街地の人口が郊外へ流出した経緯があるが、今後中心市街地の活性化を進めるには、都心居住を求める人々を対象に中心市街地への居住を誘導し、市街地の人口を増加させる必要がある。

来る人を増やす

業務に従事する人口集積は高い。通勤・通学合わせて21,000人の現状を維持増加させるための施策を展開する。

街を歩く人を増やす

目的をもって街に来る人を増やす

できる限り長く街を歩いてもらう

すでに中心市街地に住んでいる人7,000人と毎日通勤・通学で通って来ている21,000人に、できる限り多く街を歩いてもらうための環境整備を図る

3．中心市街地の整備改善事業

【中心市街地全般】

- ・安全な居住環境整備事業
- ・バリアフリー道路整備事業

【観光エリア】 佐賀城周辺エリアを一部含む

- ・徴古館周辺整備事業
- ・街並み環境整備事業
- ・歴史的景観保全事業

都市再生整備計画（平成17年3月）

1．都市再生整備計画の整備方針等

【観光拠点・観光ルートの磨き上げ】

- ・佐賀の原風景として親しまれているお堀から徴古館周辺、柳町の佐賀氏歴史民俗館へ至るエリアは、歴史文化資産を色濃く残しており、歴史や文化を生かした。観光拠点として、旧佐賀藩主鍋島家に引き継がれた。美術品や歴史資料を集めた徴古館を中心とした松原エリア一帯、長崎街道沿いで、城下町の風情を残す歴史・文化スポットの佐賀市歴史民俗館地区の整備充実を図り、中心商業地とイベントの連携を行い、観光客を町中へ誘引し、さらに多賀城本丸歴史観と連携した観光振興を展開する。

2．方針に合致する主要な事業

- ・徴古館と連携した一体的公園整備
- ・観光イベント・民間タイアップ事業等

佐賀市中心市街地まちづくりビジョン（平成9年）

1．街の将来あるべきイメージと推進方策

県庁通り地区の機能強化の方向付け

- ・道路環境の整備によるアメニティ機能の強化
 - ・ひとときを楽しく過ごせる演出とゾーン毎に個性化を図る業種の充実
（飲食・食料品/佐賀の食材・食文化の提案。趣味性を高め、趣味の活動の場の提供）
 - ・道路環境整備に伴う街かどの個性化（直交する小路と調和した辻の整備を軸）
 - ・商店街組織の法人化による共同事業の活性化
- 将来の目標像
- ・道路環境整備による快適で歩きやすい通り全体に連続させ、「車で来てちょっと歩いて楽しめる」まちを目指す。
 - ・歩いて楽しめる街かど（ショーウインド、窓辺、日除け、看板等）個性ある業種業態の充実、ひとときをくつろげるカフェ等で歩きたくなる要素を高める

推進方策

- ・商業者の意識の高揚と役員が活動しやすい組織の強化

2．商店街整備

【松原ゾーン】 佐賀城周辺エリアを一部含む

- ・東側は青空駐車場や空地があり商店街として連続性にかける。
- ・中の小路と併せて多様な趣味品が揃い、多様な教室等趣味ができる場の提供により趣味性の強化を図る。

3．回遊路の計画

- ・歩道段差なし
- ・舗装による区分
- ・くすかぜ広場と松原川環境整備を連続させる

佐賀市観光振興戦略プラン・具体化事業（平成14年3月策定）

【重点地区：城内周辺地区】

1．観光資源活用テーマの提案

佐賀城下町物語

- ・重点地区に存在する資源の多くが、中世以降明治期に至るまでの佐賀のなりたちや当時の文化を示しているため、これを総合的に展示・紹介する「龍造寺氏を辿る」「鍋島氏を辿る」、歴史的資源ルートを開発

佐賀水物語

- ・「クリーク」の歴史、技術を紹介、水田とクリークを生かした治水いよる田園都市づくりを成し遂げた「成富兵庫茂安」の業績・人柄を紹介する物語づくり。
- ・城下町としての雰囲気が残る地区、治水技術を辿り、当時の生活文化などを体験、学習の場づくりを進める。語り部の育成。

佐賀のお茶物語

- ・城濠や寺社、公園などの楠木などの大木の木陰、さらに町中の休憩所、広場などを活用し、佐賀の菓子と茶をふるまう休憩スペースの提供
- ・売茶流など各流派と共催の茶会を催すなど、佐賀の植物と菓子文化、茶文化をアピールし、知的な雰囲気のあるイベントを季節の色合いに応じて行う

庭園物語

- ・佐賀城公園、清恵庵、隔林亭（直正別邸）、蓮池公園（蓮池鍋島氏の居館跡）、高伝寺（鍋島・龍造寺家菩提寺）、夢郷庵、徐福長寿館、など歴史と縁のある庭園・公園めぐり

2. 佐賀城本丸歴史館の来訪者アンケート結果

(1) アンケート調査票

佐賀城本丸歴史館 来客アンケート調査

(月 日 曜日 時)

(1) どのようなきっかけで本丸歴史館に来ましたか？(複数回答)

- 1 本丸歴史館を主な目的に来た 2 買い物のついで 3 観光コースのひとつとして
4 ビジネスのついで 5 美術館や博物館等を訪れたついで 6 その他()

(2) この施設に来たのは何回目ですか？

- 1 はじめて 2 2回目 3 3回目 4 それ以上(回)

(3) 城内(本丸歴史館周辺)に対して感じたイメージをお答え下さい。(複数回答)

- 1 住宅地 2 官庁街 3 観光地 4 商業地 5 緑の多い憩いの場所 6 その他

(4) お土産や買い物は、どこでされましたか、もしくは予定がありますか？(1つ)

- 1 買う予定なし 2 中心商店街(アーケード街) 3 玉屋 4 佐賀駅周辺 5 唐人町(駅前通り) 6 その他

(5) 本丸歴史館以外に市内のどこに立ち寄られましたか？ 予定も含めて(複数可)

- 1 佐賀市歴史民俗館(佐賀城下ひなまつり会場) 2 徴古館 3 松原神社・佐嘉神社 4 県立博物館・美術館
5 大隈記念館・生家 6 中心商店街(唐人町・呉服元町商店街、ゆつつらーと館、エスプラッツ、玉屋など)
7 森林公園 8 金立公園 9 神野公園 10 高伝寺 11 温泉(三瀬温泉、古湯温泉、熊の川温泉)
12 地場産品直売所 13 筑後川昇開橋 14 その他()

(6) 市外ではどこに立ち寄られましたか？ 予定も含めて(複数可)

- 1 吉野ヶ里 2 唐津・呼子 3 有田・伊万里 4 武雄・嬉野
5 鹿島・祐徳稲荷 6 多久・巖木
7 柳川 8 日田 9 吉井 10 長崎 11 熊本 12 福岡市 13 その他()

(7) 城内を訪れて、どのような施設やサービスがあったら良いと思われましたか(複数回答可)

- 1 食事や喫茶ができる場所
2 佐賀県のお土産が買える場所
3 駐車場をもっと多く
4 観光ルートなどの案内板
5 城内及び周辺を案内する観光ガイド
6 自転車で自由に見て回れるサービス(貸し自転車やガイドテープ)
7 その他()

(8) その他、佐賀城内や本丸歴史館に対して、ご意見やお気づきの点があれば何でもご記入下さい

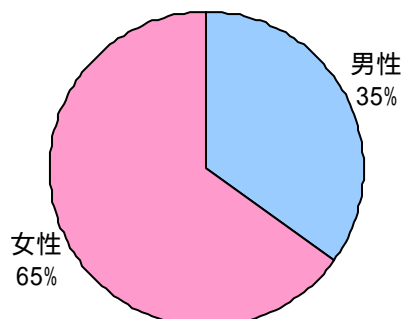
[]

性別	1.男性 2.女性
年齢	1.10歳代 2.20歳代 3.30歳代 4.40歳代 5.50歳代 6.60歳代 7.70歳代 8.80歳代
誰とこられましたか？	1.ひとり 2.家族 3.親戚 4.友人知人 5.ツアー 6.その他
同行人数	1.1人 2.2人 3.3人 4.4人 5.5人以上 (人)
交通手段	1.マイカー 2.路線バス 3.団体観光バス 4.JR+路線バス 5.JR+タクシー 6.タクシー 7.航空機 8.その他()

(2) アンケート結果

性別

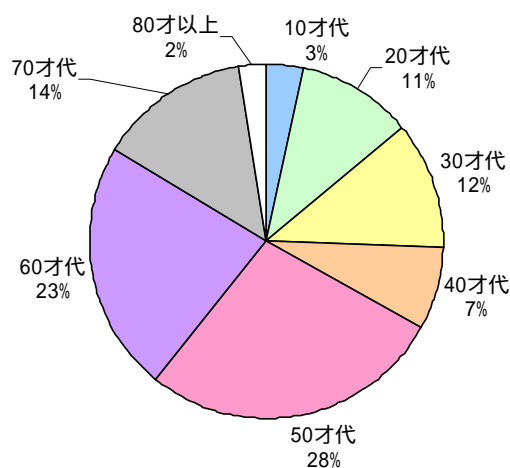
- ・女性の割合が高くなっている。



カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 男性	131	33.9	35.1
2 女性	242	62.7	64.9
不明	13	3.4	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

年齢

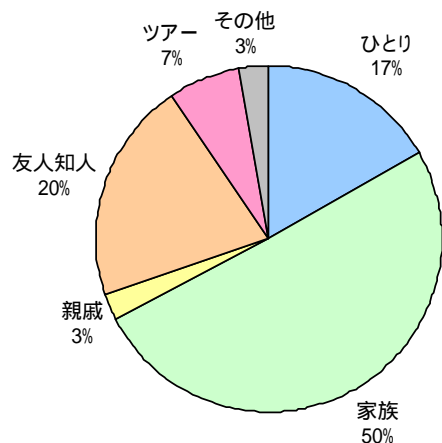
- ・50歳以上の来訪者が全体の7割近く。



カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 10才代	12	3.1	3.2
2 20才代	41	10.6	10.8
3 30才代	44	11.4	11.6
4 40才代	28	7.3	7.4
5 50才代	105	27.2	27.8
6 60才代	86	22.3	22.8
7 70才代	53	13.7	14
8 80才以上	9	2.3	2.4
不明	8	2.1	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

同伴者

- ・家族で来ている人が全体の5割。次に友人知人と来ている人が2割。
- ・ひとりでの来訪者も多い

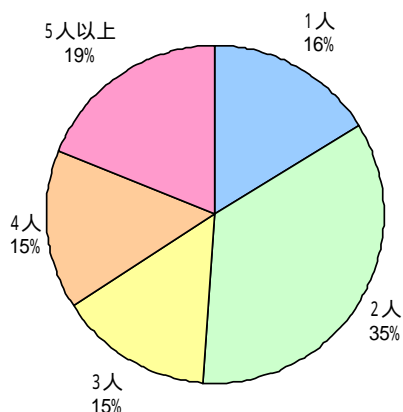


カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 ひとり	61	15.8	16.6
2 家族	186	48.2	50.5
3 親戚	10	2.6	2.7
4 友人知人	76	19.7	20.7
5 ツアー	25	6.5	6.8
6 その他	10	2.6	2.7
不明	18	4.7	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

同行人数

- ・ 2人での来訪がもっとも多い。
- ・ 5人以上の来訪者も2割程度。

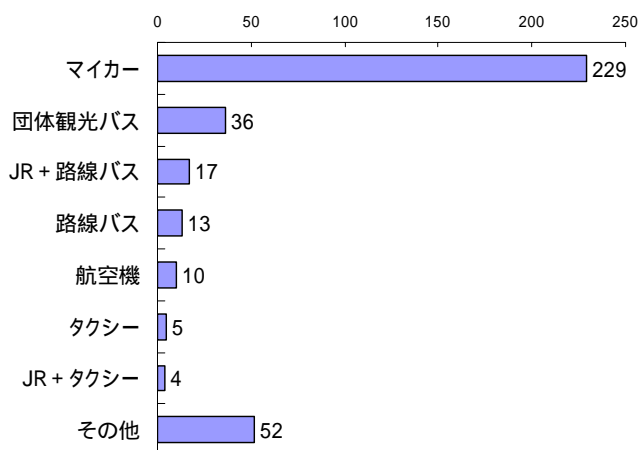
副館長の話を含めて考えると、団体客の回答が少なくなる傾向があるため、5人以上の同行人数の比率は実際には3割近くが想定される。



カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 1人	59	15.3	16.1
2 2人	129	33.4	35.1
3 3人	54	14	14.7
4 4人	56	14.5	15.3
5 5人以上	69	17.9	18.8
不明	19	4.9	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

交通手段

- ・ マイカーでの来訪者が全体の6割以上になっている。
- ・ 団体観光バスは1割程度だが、副館長の話を含めて考えると、団体客の回答が少なくなる傾向があるため、比率が高まる可能性が高い。
- ・ その他では、徒歩や自転車での利用が多くなっている。ホテルのバス利用もある。



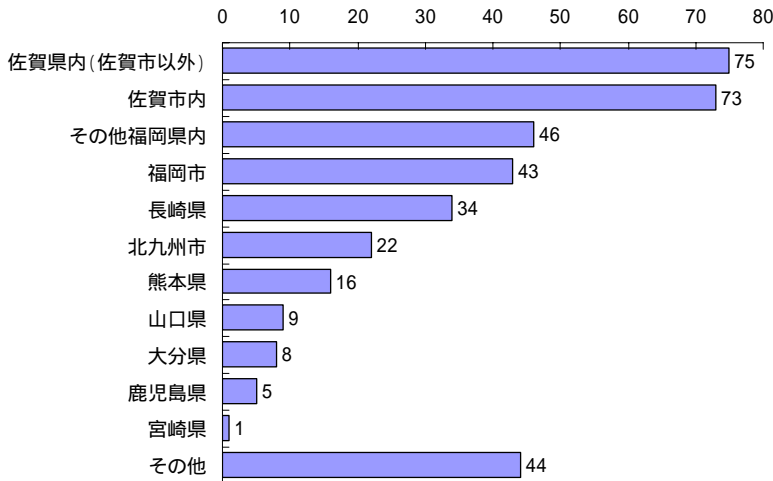
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 マイカー	229	59.3	62.6
3 団体観光バス	36	9.3	9.8
4 JR + 路線バス	17	4.4	4.6
2 路線バス	13	3.4	3.6
7 航空機	10	2.6	2.7
6 タクシー	5	1.3	1.4
5 JR + タクシー	4	1	1.1
8 その他	52	13.5	14.2
不明	20	5.2	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

< その他 >

- ・ 徒歩 (16件)
- ・ 自転車 (12件)
- ・ JR (10件)
- ・ ホテルのバス、高速バス (4件)
- ・ 友人の車 (1件)
- ・ 旅館の車 (1件)

どこから来たか

- ・佐賀市内と佐賀県内の来訪者が全体の4割を占め、福岡県からの来訪者が3割を占める。
- ・本丸歴史館は北部九州が利用者圏域となっている。
- ・福岡県内では、久留米などからの来訪が多い。
- ・その他では東京からが多くなっている。



どこから来たか(SA)

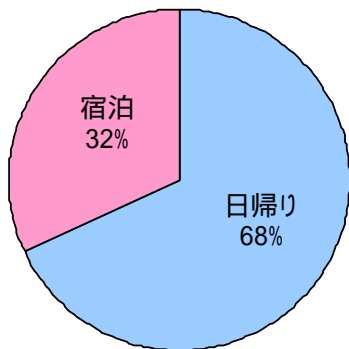
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
2 佐賀県内(佐賀市以外)	75	19.4	19.9
1 佐賀市内	73	18.9	19.4
5 その他福岡県内	46	11.9	12.2
3 福岡市	43	11.1	11.4
6 長崎県	34	8.8	9
4 北九州市	22	5.7	5.9
8 熊本県	16	4.1	4.3
11 山口県	9	2.3	2.4
7 大分県	8	2.1	2.1
9 鹿児島県	5	1.3	1.3
10 宮崎県	1	0.3	0.3
12 その他	44	11.4	11.7
不明	10	2.6	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

<その他>

東京(12件)	大阪(6件)	神奈川(4件)	北海道(2件)	広島(2件)	愛知(2件)
千葉(1件)	岡山(1件)	神戸(1件)	埼玉(1件)	鎌倉(1件)	兵庫(1件)
京都(1件)	静岡(1件)	三重(1件)	ドイツ(1件)	米国・シカゴ(1件)	韓国(1件)

宿泊の有無

- ・日帰り客が全体の7割近いが、3割以上が宿泊をしている。
- ・宿泊先としては、古湯や武雄・嬉野という回答が多くなっている。
- ・宿泊者の立ち寄り場所をみると、宿泊先の武雄・嬉野だけでなく、吉野ヶ里、伊万里・有田など他の佐賀県内を回っていている。



宿泊したか (SA)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 日帰り	246	63.7	68
2 宿泊	116	30.1	32
不明	24	6.2	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

<宿泊先フリーアンサー>

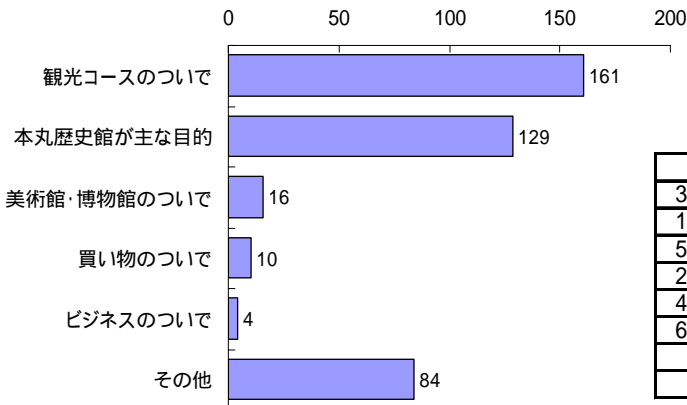
古湯(14件)	武雄(12件)	嬉野(11件)	シティホテル・ビジネスホテル等(11件)
原鶴(8件)	佐賀市内(7件)	長崎(5件)	熊本(4件)
柳川(3件)	佐世保(3件)	友人・知人宅(3件)	家・自宅(3件)
西海温泉(2件)	唐津(2件)	娘の家(2件)	千代田(2件)
宗像(2件)	福岡(2件)	大分(2件)	実家(2件)
ユースホステル(1件)	セキアヒルズ(1件)	親戚の家(1件)	祖母宅(1件)
日田(1件)	四季菜館(1件)		

「本丸歴史館以外で立ち寄った場所（市外）」と「宿泊したか」のクロス集計

下段:%	合計	吉野ヶ里	唐津・呼子	有田・伊万里	武雄・嬉野	鹿島・祐徳稲	多久・厳木
合計	300	42	28	29	43	12	5
合計	100	14	9.3	9.7	14.3	4	1.7
日帰り	199	27	16	16	14	9	5
日帰り	100	13.6	8	8	7	4.5	2.5
宿泊	101	15	12	13	29	3	-
宿泊	100	14.9	11.9	12.9	28.7	3	-
下段:%	柳川	日田	吉井	長崎	熊本	福岡市	その他
合計	27	9	7	16	7	23	164
合計	9	3	2.3	5.3	2.3	7.7	54.7
日帰り	13	5	4	6	3	13	133
日帰り	6.5	2.5	2	3	1.5	6.5	66.8
宿泊	14	4	3	10	4	10	31
宿泊	13.9	4	3	9.9	4	9.9	30.7

本丸歴史館に来たきっかけ

- ・観光の一環でくる人が4割以上。
- ・歴史館そのものを目的とする人は3割。
- ・その他の意見などを見ても、茶会や花見、卒業式などの“ついで”での利用が高い。
- ・中には運転手の紹介で訪れた人もいた。



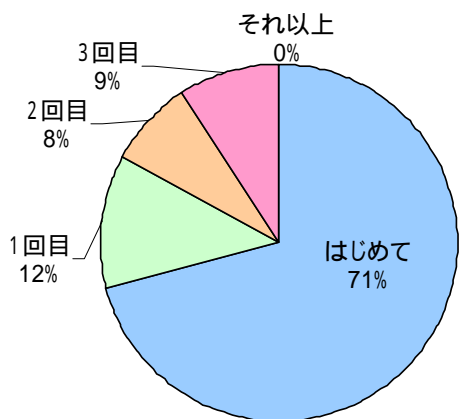
(1) 本丸歴史館に来たきっかけ (MA)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
3 観光コースのついで	161	41.7	33.9
1 本丸歴史館が主な目的	129	33.4	2.6
5 美術館・博物館のついで	16	4.1	42.4
2 買い物について	10	2.6	1.1
4 ビジネスについて	4	1	4.2
6 その他	84	21.8	22.1
不明	6	1.6	0
サンプル数(%ベース)	386	100	100

< その他 >			
ひなまつりのついで (26件)	パンフレット (3件)	茶会のついで (2件)	帰郷 (2件)
先祖のルーツを訪ねて (2件)			
< 1票の意見 >			
・テレビ・新聞で	・お墓参りのついで	・鍋島に興味有り	
・以前から来たかった。	・大学	・タクシー運転手の紹介	
・お姫様体験	・奉仕	・卒業式のついで	
・飲み会のついで	・骨董市のついでに	・桜見物に来ました。	
・前回、跡だけだったので	・近所住人	・引越のついで	
・ゆっくりみたかった	・骨董市	・友達に連れられて	
・再度、みたかった	・サッカー	・先人に会いたくて	
	・梅を観に	・両親に見せたくて	

利用回数

- ・初めての利用者が全体の8割。
- ・リピーターは2割程度。
- ・リピーターは地元（佐賀市内・佐賀県内）の人やマイカー利用者に多くなっている。



(2) 施設に来たのは何回目か(SA)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 はじめて	271	70.2	70.8
2 1回目	47	12.2	12.3
3 2回目	30	7.8	7.8
4 3回目	35	9.1	9.1
5 それ以上	0	0	0
不明	3	0.8	0
サンプル数(%ベース)	386	100	100

「施設に来た回数」と「居住地」のクロス集計

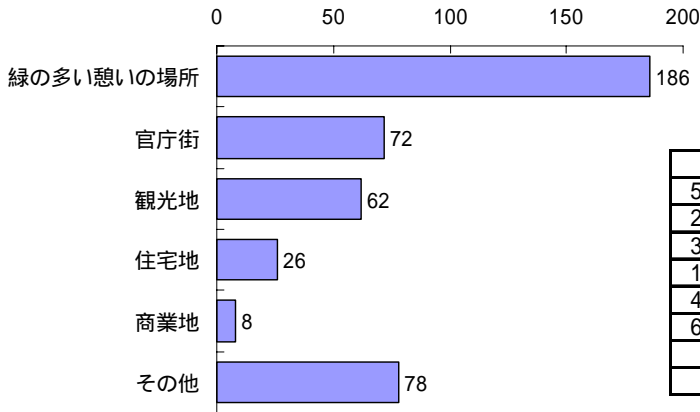
下段:%	合計	佐賀市内	県内	福岡市	北九州市	その他福岡県	長崎県	大分県	熊本県	鹿児島県	宮崎県	山口県	その他
合計	375	73	74	43	22	46	34	8	16	5	1	9	44
	100.0	19.5	19.7	11.5	5.9	12.3	9.1	2.1	4.3	1.3	0.3	2.4	11.7
はじめて	265	33	42	36	19	34	27	8	14	4	1	9	38
	100.0	12.5	15.8	13.6	7.2	12.8	10.2	3.0	5.3	1.5	0.4	3.4	14.3
2回目	46	13	13	3	1	6	5	0	0	1	0	0	4
	100.0	28.3	28.3	6.5	2.2	13.0	10.9	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	8.7
3回目	30	10	8	2	2	3	2	0	1	0	0	0	2
	100.0	33.3	26.7	6.7	6.7	10.0	6.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	6.7
それ以上	34	17	11	2	0	3	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	50.0	32.4	5.9	0.0	8.8	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0

「施設に来た回数」と「交通手段」のクロス集計

下段:%	合計	マイカー	路線バス	団体観光バス	JR+路線バス	JR+タクシー	タクシー	航空機	その他
合計	365	228	13	36	17	4	5	10	52
	100.0	62.5	3.6	9.9	4.7	1.1	1.4	2.7	14.2
はじめて	257	154	11	33	13	4	3	10	29
	100.0	59.9	4.3	12.8	5.1	1.6	1.2	3.9	11.3
2回目	44	32	1	1	3	0	0	0	7
	100.0	72.7	2.3	2.3	6.8	0.0	0.0	0.0	15.9
3回目	30	21	0	2	1	0	1	0	5
	100.0	70.0	0.0	6.7	3.3	0.0	3.3	0.0	16.7
それ以上	34	21	1	0	0	0	1	0	11
	100.0	61.8	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	32.4

城内のイメージ

- ・ 緑の多い憩いの場所としてのイメージが高い。
- ・ ついで官庁街というイメージであり、観光地としてのイメージは薄い。
- ・ 市内の人にとって城内は“観光”というイメージが強いが、佐賀県内の人には“官庁街”というイメージが強いようである。



(3) 城内に対して感じたイメージ(MA)

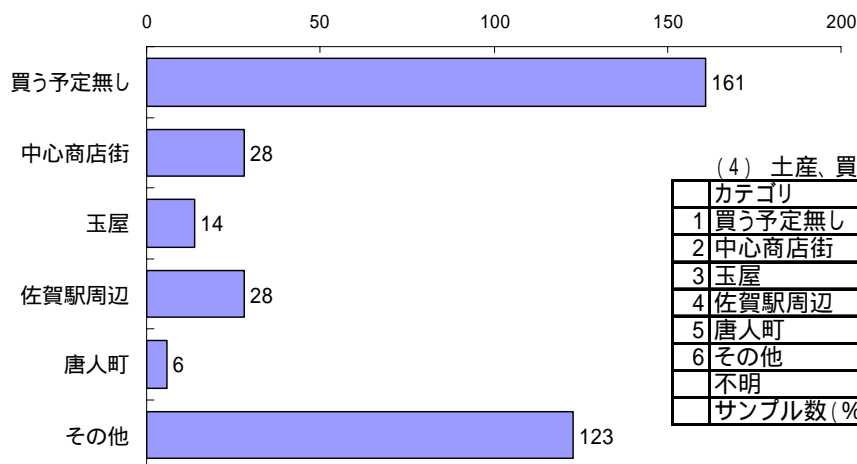
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
5 緑の多い憩いの場所	186	48.2	49.3
2 官庁街	72	18.7	19.1
3 観光地	62	16.1	16.4
1 住宅地	26	6.7	6.9
4 商業地	8	2.1	2.1
6 その他	78	20.2	20.7
不明	9	2.3	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

「城内のイメージ」と「居住地」のクロス集計

下段:%	合計	住宅地	官庁街	観光地	商業地	緑の多い憩いの場所	その他
合計	371	25	69	59	6	185	78
合計	100	6.7	18.6	15.9	1.6	49.9	21
佐賀市内	73	5	8	14	-	42	12
佐賀市内	100	6.8	11	19.2	-	57.5	16.4
県内	75	3	20	6	3	39	12
県内	100	4	26.7	8	4	52	16
福岡市	41	4	8	8	1	19	6
福岡市	100	9.8	19.5	19.5	2.4	46.3	14.6
北九州市	22	-	3	5	-	14	6
北九州市	100	-	13.6	22.7	-	63.6	27.3
その他	46	2	9	6	1	26	12
福岡県内	100	4.3	19.6	13	2.2	56.5	26.1
長崎県	32	2	6	4	1	14	12
長崎県	100	6.3	18.8	12.5	3.1	43.8	37.5
大分県	8	1	1	2	-	2	2
大分県	100	12.5	12.5	25	-	25	25
熊本県	16	2	3	4	-	6	4
熊本県	100	12.5	18.8	25	-	37.5	25
鹿児島県	5	-	1	1	-	3	-
鹿児島県	100	-	20	20	-	60	-
宮崎県	1	-	-	-	-	1	-
宮崎県	100	-	-	-	-	100	-
山口県	8	1	1	4	-	3	1
山口県	100	12.5	12.5	50	-	37.5	12.5
その他	44	5	9	5	-	16	11
その他	100	11.4	20.5	11.4	-	36.4	25

買い物の利用予定

- ・ 買い物の予定がない人が多く、地元への波及が少ない。
- ・ 滞在時間が短く、玉屋や中心市街地を巡る人は1割程度。周辺とのつながりが欠けている。

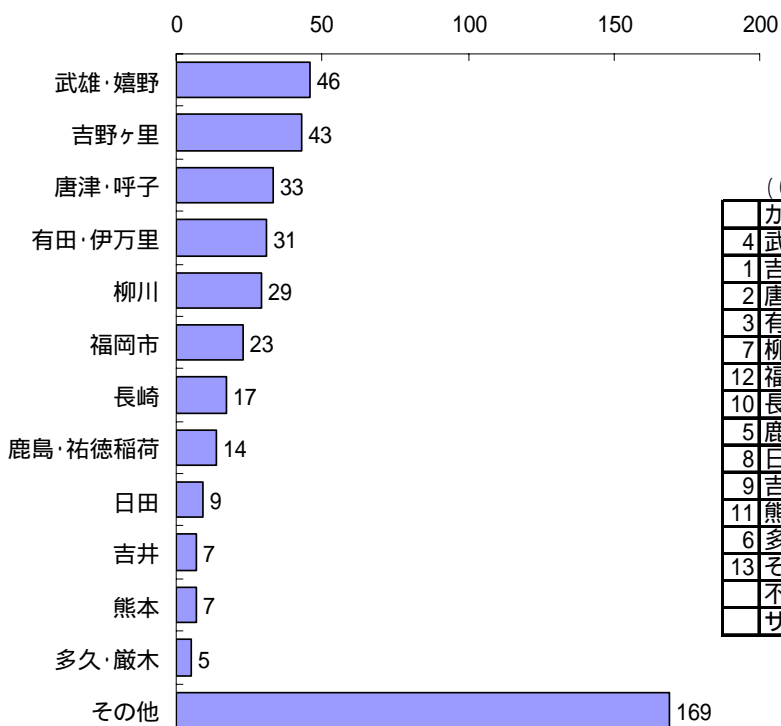


(4) 土産、買い物をした場所、もしくは予定があるか(SA)

カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1 買う予定無し	161	41.7	44.7
2 中心商店街	28	7.3	7.8
3 玉屋	14	3.6	3.9
4 佐賀駅周辺	28	7.3	7.8
5 唐人町	6	1.6	1.7
6 その他	123	31.9	34.2
不明	26	6.7	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

本丸歴史館以外の立ち寄り場所(佐賀市外)

- ・ 武雄・嬉野、吉野ヶ里、唐津・呼子、有田・伊万里など、佐賀県内をまわっている。
- ・ 福岡からの来訪者が多いためか、福岡市も立ち寄り場と考える人は少ない。

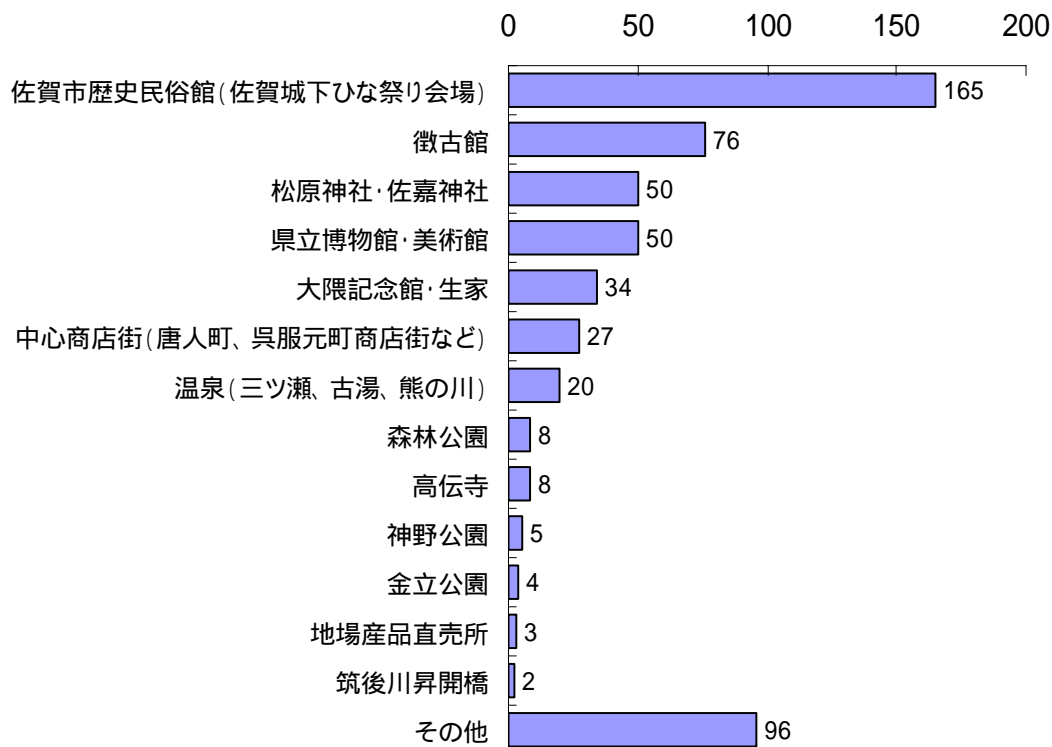


(6) 本丸歴史館以外で立ち寄った場所(市外)(MA)

カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
4 武雄・嬉野	46	11.9	14.7
1 吉野ヶ里	43	11.1	13.7
2 唐津・呼子	33	8.5	10.5
3 有田・伊万里	31	8	9.9
7 柳川	29	7.5	9.3
12 福岡市	23	6	7.3
10 長崎	17	4.4	5.4
5 鹿島・祐徳稲荷	14	3.6	4.5
8 日田	9	2.3	2.9
9 吉井	7	1.8	2.2
11 熊本	7	1.8	2.2
6 多久・巖木	5	1.3	1.6
13 その他	169	43.8	54
不明	73	18.9	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

本丸歴史館以外の立ち寄り場所(佐賀市内)

- ・ ひなまつりの開催期間中でもあり、歴史民俗館、徴古館の利用が多い。
- ・ 地場産品の直売所を利用する人はほとんどみられない。

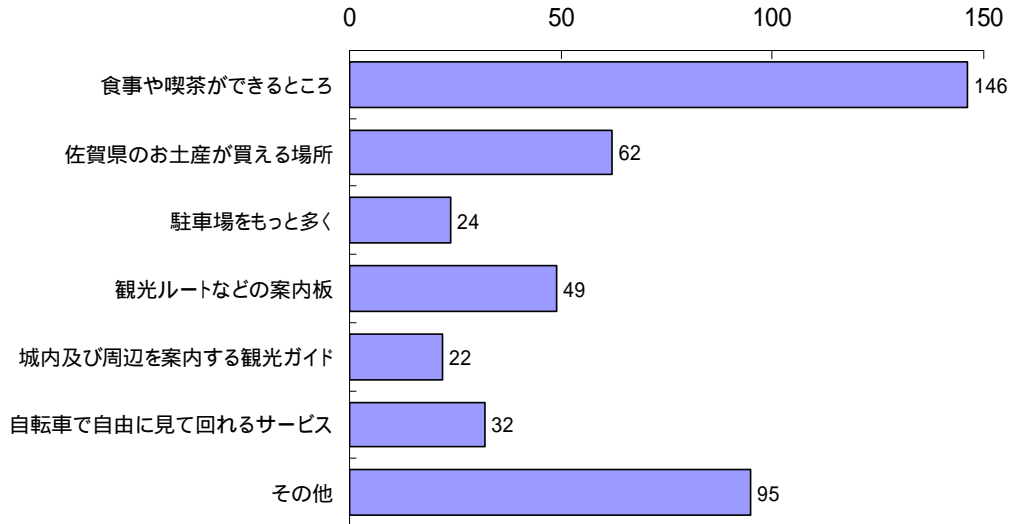


(5) 本丸歴史館以外で寄った場所(市内)(MA)

カテゴリ	件数	全体%	(除不)%
1 佐賀市歴史民俗館(佐賀城下ひな祭り会場)	165	42.7	48.7
2 徴古館	76	19.7	22.4
3 松原神社・佐嘉神社	50	13	14.7
4 県立博物館・美術館	50	13	14.7
5 大隈記念館・生家	34	8.8	10
6 中心商店街(唐人町、呉服元町商店街など)	27	7	8
11 温泉(三ツ瀬、古湯、熊の川)	20	5.2	5.9
7 森林公園	8	2.1	2.4
10 高伝寺	8	2.1	2.4
9 神野公園	5	1.3	1.5
8 金立公園	4	1	1.2
12 地場産品直売所	3	0.8	0.9
13 筑後川昇開橋	2	0.5	0.6
14 その他	96	24.9	28.3
不明	47	12.2	0
サンプル数(%へ-ス)	386	100	100

城内に期待する施設やサービス

- ・ 食事や喫茶ができることを求める人は4割以上。
- ・ お土産を買える場所を求める声も2割近く。
- ・ 観光ルートなどの案内を求める声も多い。



(7) 城内を訪れて、どのような施設やサービスがあればいいか(MA)

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 食事や喫茶ができる場所	146	37.8	44.5
2 佐賀県のお土産が買える場所	62	16.1	18.9
3 駐車場をもっと多く	24	6.2	7.3
4 観光ルートなどの案内板	49	12.7	14.9
5 城内及び周辺を案内する観光ガイド	22	5.7	6.7
6 自転車で自由に見て回れるサービス	32	8.3	9.8
7 その他	95	24.6	29
不明	58	15	0
サンプル数(%へ入)	386	100	100

<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 納得 ・ 良かった ・ 今の儘で十分 ・ 満足 <p>施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座るところがない(3件) ・ 城らしさが無い。広い家という感じ。 ・ 庭に降りれる場所を増やして欲しい ・ 遊べる場所 	<p>情報サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明の時間が少ない ・ 点字が欲しい。 ・ 佐賀の歴史の詳細 ・ 案内・説明がもっとほしい(3件) ・ もっと詳細なコト、個人のことなど ・ イベントが欲しい ・ 外国語での質問が難しい。 	<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスの利便が悪い(2件) ・ わかりやすい道案内 ・ 車から、場内まで足の不自由な方の対応が不便。 ・ 駐車場がわかりにくい ・ 場所が遠い。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 甘酒 ・ 入館料をとった方が良いのでは。 ・ 体験入学があるといい。
--	--	---

自由意見

- ・良い印象であるという回答が目立っている。特に施設が無料であること、説明等があることが評価されているようである。
- ・逆に無料だけに、今後の維持管理を心配する声もあった。

<感想>

- ・また来たいと思う。
- ・佐賀はサービスがよい。福岡は高い。
- ・ためになった。
- ・きれいに掃除されており、気持ちがよい

<利用料について>

- ・無料ありがたい(2件)
- ・無料に驚いた(2件)
- ・多少はお金をとってもよいのでは。佐賀県民なので維持費がかかるのではと心配

<施設について>

- ・駐車場近くに車いすが欲しい。
- ・バリアフリーがよい。
- ・長いので休憩所が欲しい。
- ・重厚な木造建築を観ることが出来、ありがたい
- ・大変まじめに復元されていて、良い印象を持ちました。

<サービスについて>

- ・3回目になるが、今回のボランティアが一番良かった。歴史に興味があり楽しかった
- ・点字での説明が欲しい。
- ・7賢人や佐賀藩についての講義をやってもらいたい。
- ・大人が来るところだけではなく、お姫様体験などあり、気軽に来れるイベントがよい。
- ・説明がよい。お金を払わないのに満喫できた。

<その他>

- ・観光アピール
- ・佐賀独特の感じがよい。

3．佐賀城周辺探訪会の議論内容

観光（観光関係や歴史資源等についての意見）

（観光コースについて）

- ・東京都庁は観光コースになっている。佐賀県庁も、上の方からは有明海まで見ることができる。県庁のロビーに、お茶飲み処を作ることはいかないか。
- ・城内で水のいろんな表情を見ることができる。観光客はもちろん、地元の人が歩いて回れるようになる。
- ・回る途中で、少し休める場所がある。いつも県庁に寄るといってもいいかもしれない。
- ・1時間～1時間半で城内を回ることができる。いろんなものを見て回れるといいコースができる。

（観光関係の施設）

- ・県庁を観光の拠点にする、という話はあり得ると思う。
- ・長崎から人が来たが、もてなしをする場所がなかった。
- ・佐賀市には喫茶店が少ないという話は良く聞く。しかし、数があっても成り立たないと経営者はいう。佐賀には、お茶を飲む習慣が少ないのではないか。

（本丸歴史館について）

- ・本丸歴史館を出ると、何もないとされる。
- ・城内には本丸歴史館があるが、周辺の案内が不足している。
- ・歴史資料館には、城に関する物が少ない。

（万部島について）

- ・万部島には歴史的なものがある。塔などはきちんと整備した方がよい。
- ・万部島に江藤新平の銅像を持ってくればどうか、という意見がある。
- ・万部島の西側に水路が入っているが、流れていないので澱んでいる。



(赤石の石積みについて)

- ・商工共済ビル跡の工事の場所では、赤石の石積みはこういう仕組みだったなど、説明するものを建てて欲しい。
- ・赤石の出たところなどで、石工の技術を活かして、石工の里などできるのではないか。
- ・商工共済ビル跡地の石垣は、本物を見て感激した。杭が刺さっている部分があったが、昔は気にしなかったのだろうか。

(その他歴史資源について)

- ・弥生橋には何か意味があったように思う。説明があった方がいい。
- ・昔、本丸小路、二ノ丸小路などの名称があった。今のどこに当たるのかははっきりしないが、歴史的な名称は残して欲しい。 配付資料の昭和 10 年の地図には表示されている。
- ・昔の赤松小に通っていたが、江藤新平の木碑があった。今はどうなったのか。
本丸歴史館整備に伴って、佐賀市の教育委員会で保管している。
保管していてもいけない。その場で読めて、写真も撮れるようにしておかなければ。
- ・高遊外売茶翁顕彰会をやっている。著名な建築家の茶室の見学に行った。そこから堀を眺めた。
- ・野田氏が、佐賀の橋としてまとめている。しかし、この 10 年間で橋が随分なくなっている。

公園・景観(公園・景観や公共施設(河川、道路等)について意見)

(多布施川について)

- ・成富茂安が、多布施川を城内に引いたものが今でも使われている。
- ・川の水は、いつも少ない。地元も金を出していないから仕方がないが、多布施川の本流くらいは多く流れて欲しい。
- ・水が多かったのは、にわか雨が降ったからではないか。普段は半分くらいしかない。
- ・地元も、今日はなぜ水が少ないかなど、気にかけるようにするといい。
- ・数年前、城内の多布施川の整備で何億か予算が付いたが、県庁の裏の整備だけで使ってしまったようだ。
- ・今日は川の水が多かった。水が多いと、景色の感じがずいぶん違う。
- ・サガテレビから市村記念館までは、川の水が北に流れており、珍しい。コイなどが泳ぐ川にしてはどうか。

(堀について)

- ・堀は、完備されたようで、市民が楽しむという感じが無い。ハスも出来が悪い。蓮根も毎年とれば、いいハスができるのではないか。
- ・堀を禁漁にせず、釣りをして下さい、ということにすれば、もっと親しめるのではないか。
釣り糸が遊歩道の人に危ない、等の問題で禁漁としている。歩行者を優先に考えている。

(橋について)

- ・いわれのある橋がたくさんある。龍谷高校のところの橋は、勸請橋と呼ばれている。横目(じろり)橋というのは、商人が侍の町を横目でじろりと見た、という橋。こんにやく橋は幽霊が出るという話がある。良寛橋は、殿様が引退して良寛という坊さんになったことから。
- ・柳の木を活かして、景観の佐賀市、観光の佐賀市としてPRしてほしい。

(道路について)

- ・本丸歴史館の通りはまず何かしようと思っている。
- ・城内線の工事が入ったのをきっかけに、通りのまちづくりをやってはどうか。通りには木を植えて欲しい。

(その他)

- ・景観は、個人の利益ばかり優先するとできない。公共性との関係がある。
- ・そこが誰の土地で誰が管理しているかなど、まず整理する必要がある。誰がやるべきところなのかははっきりしないので、みんな逃げている。例えば、川に水を通したいなら、市と議論した方がいい。
- ・上流の方も合併すれば、佐賀市が全て管理する、ということになってやりやすいのではないか。上流では古豪農家等との関係もあり、合併したからといって簡単ではない。



まちづくり

(住民の意識やまちづくりのルールについて)

- ・住民意識のレベルが問われている。お互いに高めれば、いいまちになるのではないか。
- ・百年構想を最初に作ったとき、40～50年しか持たないものだから建ててもいいだろう、などと言ってルール違反の建物を建てようとした人がいた。
- ・城内のグレードを高くするなら、縛りも必要になる。高級マンションでは制約も多い。
- ・若楠会館の通りは生垣推進地区になっているが、個人の土地なのでなかなか進まない。

(市民の情報拠点について)

- ・市民で掘り起こしたいいろんなものを、みんなに見せるところが必要。みんなが見ないと、未来を描けないのではないか。

(川の清掃や管理について)

- ・川底には泥土が溜まっている。それをきれいにすることが必要。
- ・川は、昔は毎年泥を上げて砂を入れる、ということをやっていたのできれいだった。
- ・トンボやホタルが棲むような水辺を考える必要がある。しかし、ある程度草などがないと、トンボも出なくなる。きれいにしてしまうのではなく、計画的にやる必要がある。
- ・試験通水もやってみたようだが、上の方で水を確保しても、城内まで流れてくるかどうかかわからない。

(城内の木について)

- ・大楠を根回しをして植え替えたことは、環境問題として考えることもできる。
- ・木は苦情も多い。地元の方は、木の恩恵を受けてるはずだが、落ち葉の苦情などが来る。

(その他)

- ・地元でも、日常的に人が出てこない。そこで、桜の花見とバーベキューをやりはじめて、そのときには100人くらいは出てくるようになった。
- ・百年構想は、百年かかってでも素晴らしいものを作ろう、ということ。
- ・今回、自治会なども入っているので、うまくいくのではないか。



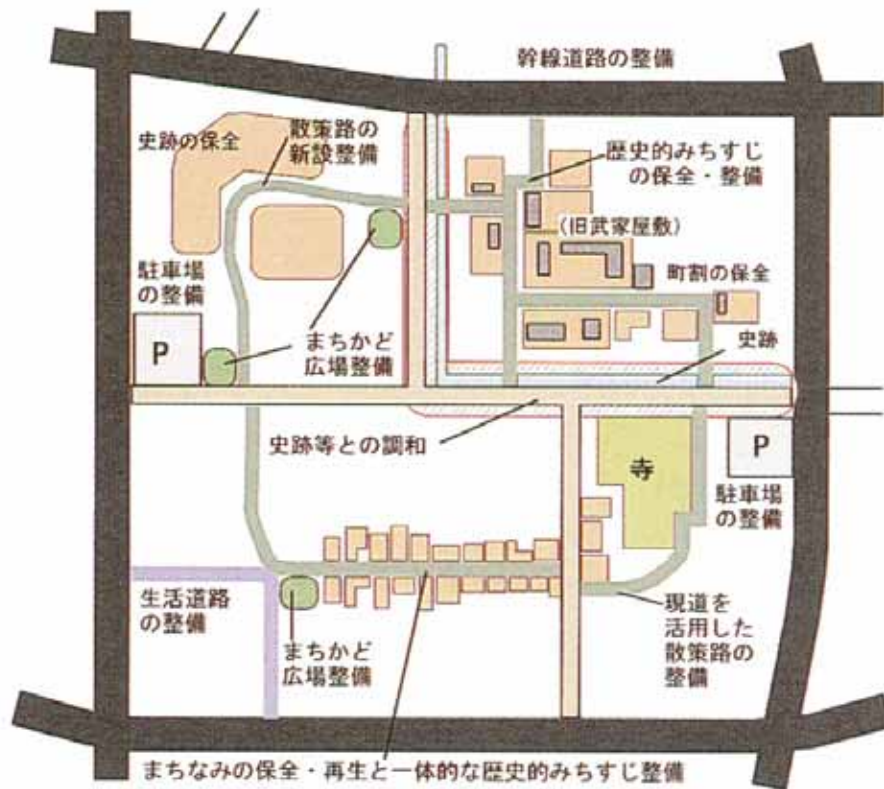
4. 事業手法事例

身近なまちづくり支援街路事業（歴みち事業）

身近なまちづくり支援街路事業（歴みち事業）概要

- ・ 歴史的地区を迂回する幹線道路の整備
- ・ 歴史的みちすじの保全・整備
- ・ 観光交通と生活交通を分離するための地区内道路の体系的整備
- ・ 電線類の地中化
- ・ 観光交通を受け止める交通広場の整備

歴みち事業のイメージ図



歴史的地区への誘導路の整備

- ・ 街路幅員の拡幅整備
 - ・ 歩道の拡幅または設置（歩専用道も含む）
 - ・ 標識、表示類の充実、等
- ###### 地区内の生活道路の整備
- ・ 補助幹線街路の整備
 - ・ 歩道の拡幅または設置
 - ・ 歩行者専用道路の設置、等

歴史的道すじの整備

- ・ 現道幅員内における街路整備
- ・ 特殊舗装
- ・ 標識、表示類の充実
- ・ 雨水排水施設の設置
- ・ 緑化
- ・ 歩行者のためのまちかど広場、交通広場の整備等、地区の周辺部における交通広場の整備
- ・ バス、タクシーの乗降のためのスペース
- ・ 自家用車、自転車の一時的駐車のためのスペース

出典：「歴史を未来につなぐまちづくり・まちづくり」,学芸出版社

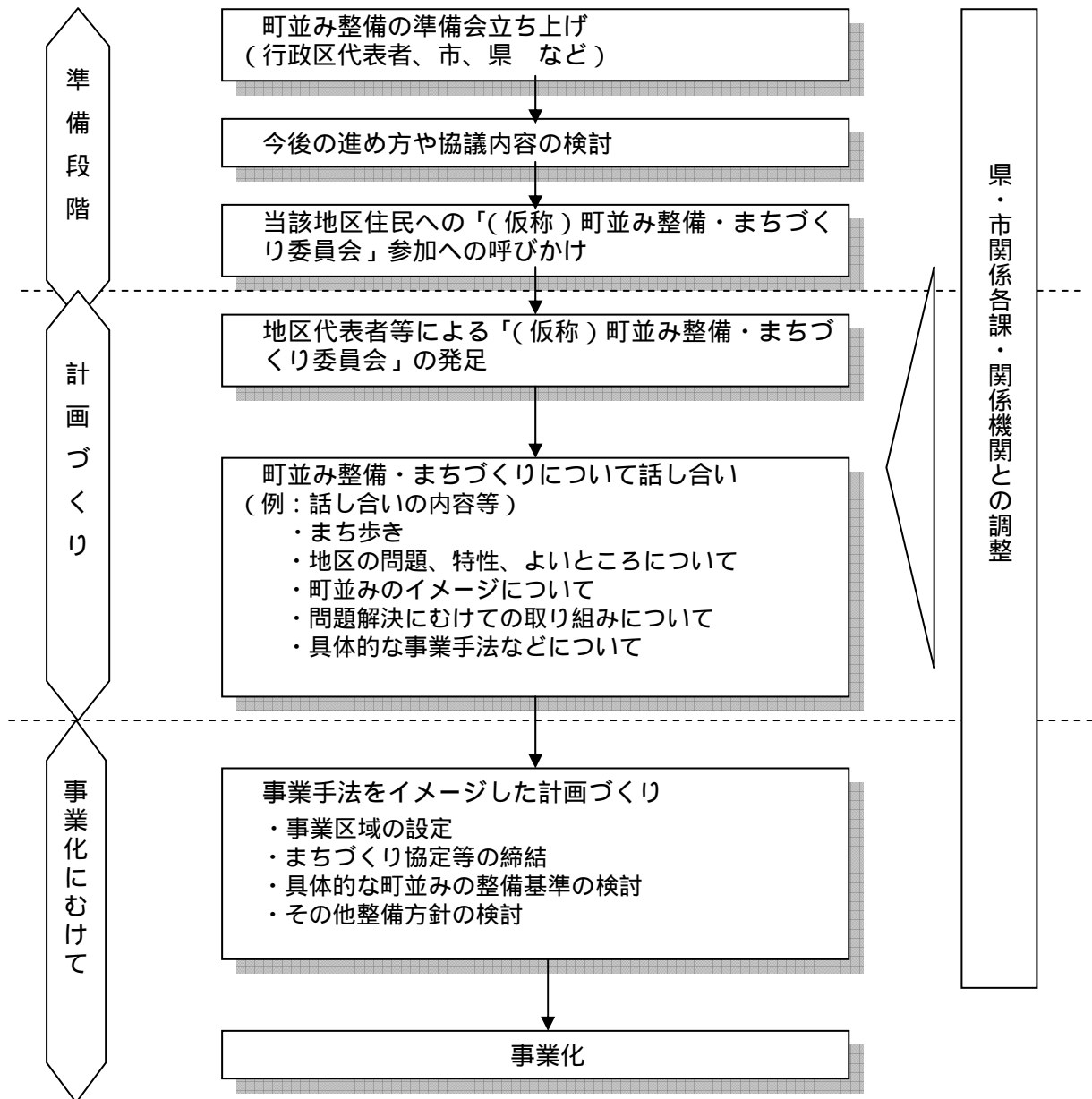
街なみ環境整備事業

- ・町並みを整えていくためには、建替えや表側の修復の際に建て方のルールを守ってもらう必要がある。このためには、単に努力義務だけでは整備は進まなく、ルールに基づいた建て方や修復をする人には一定の助成金を支給されるような事業手法を検討する。
- ・例えば、町並み整備に関しては、国土交通省の「街なみ環境整備事業」があるので、地区の整備の意欲の高まりによっては、このような事業をにらんだ構想づくり、事業化への取り組みをしていくことも考えられる。

(例)「街なみ環境整備事業」の概要

事業の目的	住宅が密集し、かつ生活道路等の地区施設が未整備であること、住宅等が老朽な美観を有していないこと等により住環境の整備改善を必要な地区において、ゆとりあるうるあおいのある住宅地区を形成するため、地区施設、住宅及び生活環境施設の整備等、住環境の整備改善を行う地方公共団体及土地所有者等に対して国等が必要な助成を行うもの
事業主体	市町村 都道府県は、市町村が本事業を施行することが困難な場合その他特別に事情がある場合において施行することができる。
地区要件	<p>(街なみ環境整備促進区域)</p> <p>当該地域の面積1ha以上でかつ次のいずれかの要件に該当していること</p> <p>接道不良及び住宅密集に関する要件</p> <p>ア.当該地域の内の住宅戸数に対する接道不良住宅(その敷地が幅員4m以上の道路に接していない住宅)の戸数の割合が7割以上</p> <p>イ.当該地域の面積に対する当該区域の住宅の戸数の割合が、原則として30戸/ha以上であること。</p> <p>道路、公園等に関する要件</p> <p>ア.当該区域内の幅員6m以上の道路の延長が、原独として当該区域内の道路総延長の1/4未満であること。</p> <p>イ.公園、広場及び緑地の面積の合計が、原則として当該区域の面積の3%未満であること。</p> <p>景観形成に関する要件</p> <p>地方公共団体の条例等により景観形成を図るべきとされていること。</p> <p>(街なみ環境整備事業地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街なみ環境整備促進区域内において、面積が2ha以上であり、街づくり協定(事業主体の承認を受けたもの)が締結された区域
主な助成	<p>協議会活動助成(補助率 間接 1/2)</p> <p>整備方針作成事業(補助率 直接 1/2)</p> <p>街なみ整備事業(補助率 直接 1/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画策定 ・地区施設整備、地区防災施設用地、生活環境施設(集会所等) ・空き家除却費 <p>街なみ整備助成事業(間接 1/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修景整備事業 ・共同建替等共同施設整備(広場、空地整備、通路整備等)

図 町並み整備、まちづくりへの取り組み手順のイメージ



5．拠点施設事例

博多町屋ふるさと館

概要

- ・『福岡市民の心のふるさと「博多」の暮らしと文化に触れてみませんか』
- ・明治・大正時代の博多の暮らしや、今に受け継がれる祭事・歴史・文化を紹介
- ・展示・学習がメインで、物産販売のスペースは少ない

建物

- ・明治中期の町家を移築、復元（町家棟は福岡市の文化財に指定）



メニュー

みやげ処：博多の伝統工芸品や銘菓、なつかしいおもちゃや駄菓子

各種展示：博多観光情報ガイド（映像・音声）・明治・大正の博多の地図や身の回り品の展示・博多祇園山笠映像ルーム・博多弁講座・博多仁和加・伝承工房（博多織実演）等々

その他

開館時間：午前 10 時～午後 6 時

入場料：一般 200 円、小中学生無料

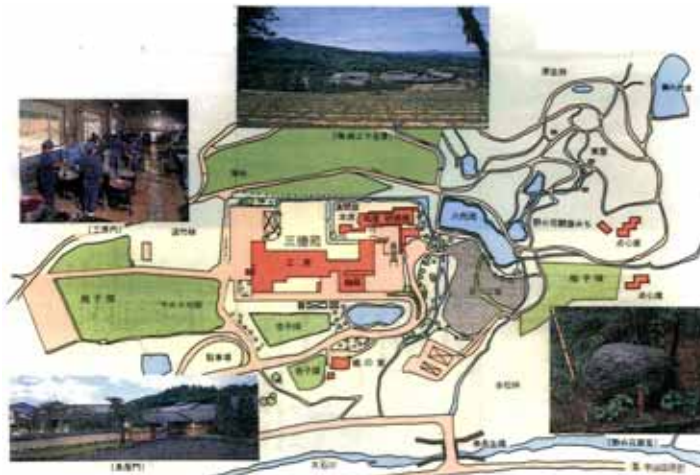
叶匠壽庵 寿長生(すない)の郷

概要

- ・滋賀県大津市の南東部に位置する農園と庭園の中にあつて、和菓子をテーマとした施設
- ・6万3千坪の敷地内には梅や柚子などが植えられた自然環境の中に菓子工場、茶室、展示ホール、和食事処、土産店がある。
- ・敷地内に36体の観音様を見て回れる散策道(4km)がある。

建物

- ・わら葺きの民家は大石良雄(内蔵助)縁の家



メニュー

展示：展示ホールではお菓子でつくった生け花などの展示、季節ごとの季節展示がある(2~3月は雛人形展がある)

インフォメーション：施設を見て回る前に、茅葺屋根の小屋で和菓子の歴史、文化の講話をうける。

和菓子づくり体験：毎週3日間 和菓子づくり体験

食事処：施設内に数寄屋造りの食事処ある(予約制)

お土産処：施設内を見て回った後、和菓子のお土産店に導かれる。

その他

開館時間：10:00~17:00(毎週水曜日定休日)

入場料：入場は無料(園内での食事は予約制)

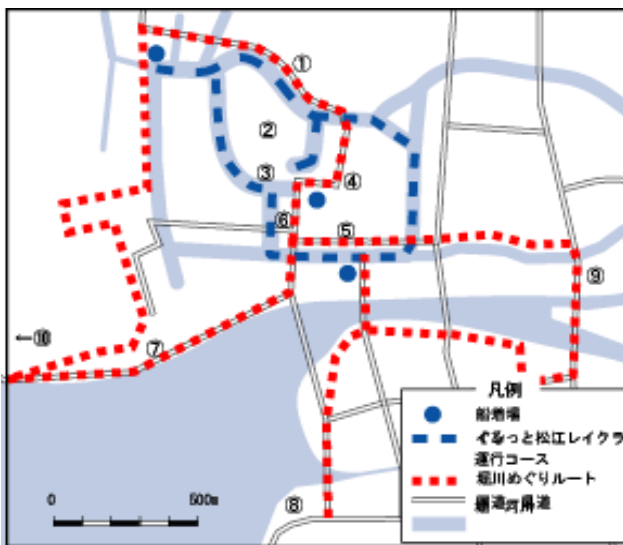
島根県物産観光館

概要

- ・島根県ふるさと伝統工芸品や県下各市町村の特産を一堂に紹介。また、県下の観光情報をビデオ、パンフレット等で提供。
- ・「五時間滞在できるまち」を目指して、観光資源（松江城や島根物産観光館等）とインフラ（堀川遊覧船・バスルート）が組み合わせられたまちづくり

建物

- ・黒塀・白壁・瓦葺き



- 凡例
- 船着場
 - ぐるっと松江レイクワ
運行コース
 - 堀川めぐりルート
 - 瀬田川舟道
- ① 小泉八雲記念館、小泉八雲旧居、
武家歴敷、明々庵、田部美術館
 - ② 松江城
 - ③ 松江郷土館
 - ④ 島根ふるさと館
 - ⑤ カラコロ工房
 - ⑥ 島根県立博物館
 - ⑦ 松江名産ホール、松江名産館
 - ⑧ 県立美術館
 - ⑨ くにびきメッセ
 - ⑩ 至ルイス・C・ティファニー庭園美術館、
イングリッシュガーデン、松江フォーゲルパーク

メニュー

休憩コーナー・販売コーナー（銘菓・農水産加工品・伝統工芸品等）・特別展示コーナー・市町村コーナー・イベントコーナー・観光情報コーナー